

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103854
法人名	医療法人ビハラー 藤原胃腸科
事業所名	グループホーム アショカ
所在地	松山市南吉田町9 6 4 番地1
自己評価作成日	平成22年11月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・本人・ご家族の希望があればターミナルケアもしており、その時まで本人らしく過ごせるように支援しています。</p> <p>・希望される方は、夜間入浴ができ、一人ひとりの生活リズムが大切にされています。</p> <p>・スタッフは私服での勤務で、自宅にいるようなリラックスできる雰囲気です。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>回覧板で知った地域の掃除には、職員が参加されている。地域の盆踊り時には、利用者も参加して、地域の方達と一緒に踊られた。ボランティアの方が来られて、草引き等をして下さっている。又、ちぎり絵や折り紙等のボランティアの方には、利用者とかかわりながら、利用者にとって、どのような材料や作品作りが適するかということも分かってもらいようにされており、楽しく作業ができるように工夫をして下さっている。事業所の中庭で行う夏祭りでは、地域の方が利用者に浴衣を着せて下さり、一緒に輪になって炭坑節を踊り楽しく過ごされた。理事長や管理者は、地域や中学校で紙芝居を使う等して、認知症を知ってもらう為の講座を続けておられる。</p> <p>ユニットに一名の看護師を配置され、法人の医師は24時間、携帯電話がつながるようになっている。ご家族は、宿泊される等、最期の時を利用者と共に過ごされている。運営推進会議に看取りの話題があった時、利用者から「自分達にも説明してほしい」と要望があった。「利用者にも説明をして、終末期の希望があれば聞いていきたい」と管理者は話されていた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム アショカ

(ユニット名) 日輪

記入者(管理者)

氏名 高橋 正子

評価完了日 22 年 11 月 1 日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 今年の春に、スタッフで新しい理念を作り、事務所・フロアに掲示して共有し、各自実践するように努力している。	
			(外部評価) 職員全員で思いを持ち寄って「あなたの笑顔がみたいから あなたらしさを大切に 愛ある暮らしを支援します」と理念を作成して、事務所内の職員が作業する際、目に入るところに掲示されている。職員は、ケア等に悩んだ時には「笑顔、笑顔」と理念に立ち戻りながら取り組むようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 中庭の草刈・非難訓練・花火大会のときに、声をかけ、来て下さっている。又、傾聴・ちぎり絵・折り紙などのボランティアや、小学校の生徒が福祉体験に来たりして、交流している。地域の盆踊りにも参加している。	
			(外部評価) 回覧板で知った地域の掃除には、職員が参加されている。地域の盆踊り時には、利用者也参加して、地域の方達と一緒に踊られた。ボランティアの方が来られて、草引き等をして下さっている。又、ちぎり絵や折り紙等のボランティアの方には、利用者とかかわりながら、利用者にとって、どのような材料や作品作りが適するかということをお分かしてもらおうようにされており、楽しく作業ができるように工夫をしてくださっている。事業所の中庭で行う夏祭りでは、地域の方が利用者に浴衣を着せてくださり、一緒に輪になって炭坑節を踊り楽しく過ごされた。理事長や管理者は、地域や中学校で紙芝居を使う等して、認知症を知ってもらう為の講座を続けておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 法人で、地域フォーラムを開いたり、家族会や運営推進会議で、認知症についての勉強会が行われている。地域の公民館や、中学校に、認知症サポーター養成研修にも行っている。避難訓練に近隣の住民に参加してもらった時など、機会があれば、理解に向けて話をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に1回フロアの行事・状況などを報告し、意見を頂いている。ボランティアの紹介や、緊急の場合のネットワークなど、運営推進会議のメンバーの協力を頂いた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議時に、ボランティアの方を紹介していただいたり、避難訓練に参加していただいている。地域の方が竹を切ってきて即席担架の作り方を教えてくださったり、緊急連絡網の作成等、具体的にアイデアを出してくださり、採り入れておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の介護保健課や・高齢福祉課と連携をとったり、包括支援センターの職員を情報交換をして、協力を頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターと連携して、認知症サポーター養成講座を実施されており、事業所の2階のスペースを提供して開催することも相談されているところである。法人全体で地域の方々に認知症への理解を深めてもらえるよう、フォーラムや講座を積極的に開催されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>法人の研修会でも取り上げ、スタッフはよく理解している。身体拘束はない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、身体拘束について内部研修をされているが、管理者は、職員によって「捉え方に微妙な違いがある」と話しておられた。職員の利用者に対する言葉遣いや接し方で気になるような時には、管理者やユニットリーダーが注意を促すようにされている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  法人の研修会でも取り上げ、スタッフはよく理解している。身体拘束はない。不適切なケアが見過ごされないように、注意を払っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  スタッフの中で、実践者研修等で学んだ者がおり、情報を共有するよう努めているが、一部、まだの者もいるので、これから、更に共有に努めたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には時間をかけ説明し、十分に理解できたかどうか、確認をとっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  運営推進会議・家族会に入居者・市職員も参加して、要望が出た場合、実現できるように努めている。  (外部評価)  年2回、家族会を開催して、事業所からの報告をした後、意見を聴くようにされているが「それでいいです」と言われることが多い。事業所関係者は席を外してご家族だけで話し合う時間を設けておられる。	管理者は、ご家族に向けて、職員のケアや外出等の支援について、具体的にアンケートを取ってみることを考えられている。現在、行っている家族会を、今後、行事と抱き合わせて行うことも考えているところであった。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンス・個々の話し合いで、スタッフの意見を聞く機会を設けている。	
			(外部評価) 職員の経験年数によってケアへの理解力も違いがあることから、職員全体が向上するような研修内容や仕組みを作り、取り組まれている。職員は、気付いたことをその場で話し合ったり、管理者やユニットリーダーに相談して実現が可能なことは採り入れ、費用のかかることは検討して実現できるようすすめておられる。職員は「利用者が喜ぶことを提案していきたい」と話しておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々に思うことはあるかも知れないが、やりがいがあるように、サポートして下さっている。	
			(外部評価) 2ヶ月に1回法人内研修・個別的に、法人外の研修に参加し、カンファレンスでも勉強会を設けている。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等で同業者と交流する機会がある。リーダー養成研修や相互研修などで、交流がある。	
			(外部評価) 研修等で同業者と交流する機会がある。リーダー養成研修や相互研修などで、交流がある。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修等で同業者と交流する機会がある。リーダー養成研修や相互研修などで、交流がある。	
			(外部評価) 研修等で同業者と交流する機会がある。リーダー養成研修や相互研修などで、交流がある。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にリーダー・管理者が、本人宅を訪問し、本人・家族と面会し、要望などを細かく聞いている。開始が始まってからは、各スタッフがコミュニケーションをとり、安心していただけるよう、努めている。	
			(外部評価) 入居前にリーダー・管理者が、本人宅を訪問し、本人・家族と面会し、要望などを細かく聞いている。開始が始まってからは、各スタッフがコミュニケーションをとり、安心していただけるよう、努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にリーダー・管理者が、本人宅を訪問し、本人・家族と面会し、要望などを細かく聞いている。開始が始まってからは、各スタッフがコミュニケーションを取り、安心していただけるよう、努めている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時から、しばらくの間、気づきや注意点を細かく記録に残したり、口頭で伝え、必要な支援の把握に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事参加・食事やおやつ作り、一緒に出来ることを考え、家族のような関係作りに努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの来所時に、本人さんと御一緒に落ち着いて過ごして頂けるように意識したり家族さんからの希望やケアの内容を相談したり一緒に考えて、ケアの方向を決めていけるように、努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や馴染みの人と、電話をしたり、手紙を書いたりし、可能であれば、外出時に会ってくることもある。ご自分の家を見に行かれることもある。  (外部評価) 通院や外出時に、知人や親せきのお宅に立ち寄ったり、年賀状や届け物のお礼の電話をする際のサポートをされている。ご本人の希望で墓参りや墓掃除に職員も一緒に行かれたり、亡夫の仏壇に線香をあげに行くこともある。又、ご夫婦で入居されている方は、ともに自宅に戻って1泊されることもある。友人が他のグループホームへ入居されたと聞き近々、会いに行くことを予定している方もいた。廊下には介護度が重度の利用者の車いすを他の利用者が押してあげている写真が掲示されており、管理者は「ともに暮らす利用者同士の関係も大切にしていきたい」と話しておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う方と同じテーブルで、過ごせるようにしており、訪室して、関わりができるように、支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後も、電話等で、たまに連絡をとることもある。ホームをたずねてきてくれることもある。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り本人の思い・意向をその都度聞くようにし、困難な場合は、本人の生活歴から考えたり、家族さんへの聞き取りなど行っている。  (外部評価) 入居される前に、管理者とユニットリーダーがご自宅を訪問して、利用者のご家族とお話を聴くようにされている。入居後も「かかわりすべてが相手を知る材料」と考えて、ご本人の思いや意向を探ることに努めておられる。海の近くに住んでいた方は「海で泳いでみたい」との希望があり、又、入居前、プールに通っていた利用者は「プールで泳ぎたい」等、それぞれに意向があるが、個々の現状を踏まえて「どこまで実現に向けて、近づけるか」ということの検討を重ねておられる。	管理者は、利用者の思いを「分かったつもりの自己満足になっていないだろうか」と感じることもあるように「利用者の本来のその人らしさを見つめ直す必要性」を考えておられた。「入居時と認知症が進行した時点では、興味のあることが違っていることがある」とも話しておられた。利用者個々の今の思いや願いを知ることにも努められ、さらに利用者らしい暮らしを支えていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 各スタッフが、アセスメントシートを確認したり、コミュニケーションの中で、以前の様子を伺うなどして、これまでの生活の、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日その日の過ごし方や体調について、できたこと(家事やレク)などを、記録に残すように意識し、過去と比べて現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の要望を聞いて、カンファレンスで全スタッフがアイデアを出し合って、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は3ヶ月に1回見直しをして、カンファレンスで職員の意見を聴いて、管理者が作成されている。ご家族にも計画を見せて意見をうかがうようにされている。夢プランについて「自宅に1泊したい」という夢がある利用者がおられ「実現したい」と話しておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の生活で、あったこと・行ったことを記入し、疑問点や気づきの部分には～線をひき、情報の共有やプラン立案時に活かせるよう努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>状況に応じて、スタッフ間で話し合い、またカンファレンスにて柔軟な支援ができるよう努めている。状況の変化時にはプラン変更を行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ピアノ・草刈・ちぎり絵・折り紙・傾聴などボランティアに来ていただいて、本人の力が発揮でき、楽しく過ごせるように、支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)  同法人内の病院を受診することが多いが、本人が入居 前から通っていた病院に希望すれば、受診できる。	
			(外部評価)  入居時、かかりつけ医について相談をされるが、法人 の病院を希望される方が多い。法人の医師は、毎週の 往診以外にも必要に応じて往診をされている。耳鼻科 や歯科等の通院介助は、ご家族と連絡をとりながら支 援されている。歯科は協力医の訪問診療も受けられて いる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)  看護師が1名配置されており、皮膚の状態や・体調・ バイタなどで、普段と違うところや気づきを看護師に 報告し、適宜、Dr.指示の基、対応している。	
			(外部評価)  各スタッフで、お見舞いに行き、様子を見たり、管 理者がこまめに連絡を取り合い、退院後の支援に向け て、情報を共有している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。ま たは、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。	(自己評価)  各スタッフで、お見舞いに行き、様子を見たり、管 理者がこまめに連絡を取り合い、退院後の支援に向け て、情報を共有している。	
			(外部評価)  身体的レベルが下がって着た時、Dr. 管理者・看護 師・家族等で話し合い、そこであがった要望や方針を ユニットで共有し、支援している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  身体的レベルが下がって着た時、Dr. 管理者・看護 師・家族等で話し合い、そこであがった要望や方針を ユニットで共有し、支援している。	
			(外部評価)  重度化した際に話し合いをされているが、入院を希望される より、事業所での看取りを希望される方が多いようだ。ユニット に一名の看護師を配置され、法人の医師は24時間、携帯 電話がつながるようになってきている。ご家族は、宿泊される等、 最期の時を利用者と共に過ごされている。運営推進会議に 看取りの話題があった時、利用者から「自分達にも説明をし てほしい」と要望があった。「利用者にも説明をして、終末期 の希望があれば聞いていきたい」と管理者は話されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは作成しているが、定期的な実践は出来ない。対応の訓練などはしており、その場での実践力はついていると思う。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練に全スタッフ参加し、また地域の方にも参加していただき、協力体制をつくっている。緊急時の連絡網もつくっている。 (外部評価) 年に2回の避難訓練は、夜間設定で行われている。いざという時、慌てないように 通報機 管理者 近所と手順を定められている。近所の方には、重度の利用者の居室を知らせてあり、避難誘導や屋外での見守りをお願いされている。事業所前の空き地が避難場所になっている。スプリンクラーは、来年度設置予定となっている。	
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉使いには特に注意して、出来るだけ本人の人格を尊重する言葉かけや対応をしている。 (外部評価) 利用者の呼び方は、名字で呼ぶことが多いが、一人ひとり「どう呼ばれたいか」が違うので決めず、利用者によっては「じいちゃん」と呼ぶようにしている方もある。ホーム便りやホームページの写真掲載については、入居時に了解を得ておられ、ご家族が見て嫌な気持ちにならないように気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ本人の希望を引き出せるような支援に努めている。たとえば、おやつや飲み物、外出、日中入浴か夜間入浴かなど。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事・入浴など、ある程度のホームの時間もあるが、その日の本人の身体状況やその日の状況によって、柔軟に対応をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えの時には、出来るだけコーディネートに気をつけて、本人らしい季節に合った服装になるよう努力している。お化粧されている方もいる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 苦手な物がある時は、冷凍しておいたおかずをお出ししている。又、食べやすい形状にしている。盛り付けや食器洗い・食器拭きを、スタッフと手伝っていただいている。 (外部評価) 調理の下ごしらえは日によって「出来たり出来なかったり」するので、職員が誘ってみて、判断するようにされている。調査訪問時、食事中、箸が進まない方に、職員が「柔らかくておいしいよ」と勧めておられた。食事が終わると、ご自分で下膳や食器拭きをされる方もあった。メニューは、過去の献立のデータを参考に、利用者の食べたい物や職員からの情報を採り入れながら、管理者が作成されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの体調や身体状況に合わせた食事量・水分量を考えて支援している。又、体調不良時には、Dr.に相談し、指示をもらっている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きを促したり、できない方は、うがいなど介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	<p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握している。重度化している人もおられ、自立に向けた支援をしているが、なかなか自立は難しい。</p> <p>昼間はできるだけ布パンツにして、一人ひとりの排泄の間隔や仕草を見ながら、職員が誘導してトイレで排泄ができるように支援されている。夜間は、リハビリパンツに尿取りパッドを組み合わせたリ、ポータブルトイレを使ったり、起きて来られる方は、トイレに誘導する等、個別に支援されている。</p>	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	<p>状況に応じて、運動を促したり、冷たい牛乳を飲んでもらうなどの対応をしている。繊維質の食品も摂って頂けるようにしている。</p>	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	<p>個々の希望を尊重し、日中・夜間と分かれての入浴を行っている。また、入浴時間もできるだけ本人の希望に合わせている。</p> <p>現在は、お風呂好きの利用者が多い。昼間・夜間、利用者の希望の時間に入浴できるように支援されている。ただ、職員二人で介助する必要がある利用者は、人手のある昼間に入浴していただいている。</p>	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	<p>日中は、居室で過ごされる方が多いので、無理に声かけなどはしないようにしている。また、周囲の雑音などにも気をつけ、本人が安心して眠れるよう支援している。</p>	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 作用・副作用をケース記録ファイルにはさみ、常に目を通せるようにして用法や容量について理解できるよう努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の関わりの中で、その方の役割となっているもの、好きなことが継続していけるよう、支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日にすぐ外出できないこともあるが、少しの時間でもドライブや、買い物に行けるようにしている。また、遠くの場合は、計画を立てて、外出できるようにしている。	
			(外部評価) 散歩や買い物等、利用者何名かずつ交代で出かけるようにされている。松山劇場にお芝居を見に行ったり、イチゴ狩りに行ったり、宮島への日帰り旅行等、計画を立てて出かけておられる。海辺に住んでおられた方と海を見にドライブされたり、松山空港に出かけて、以前住んでおられた県の名産物を購入する等、個別の希望に応じた外出の支援もされている。初詣は、近くの天満宮に行っておられるが、管理者は、できれば「ご自宅の氏神様をお参りできるよう支援していきたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) なるべくお金はおかないようにしているが、本人さんや、家族さんから「どこにしまったかわからなくなってしまふ可能性があること」の了解を得て、少しのお金を持たれている方がいる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 暑中見舞いや年賀状を一緒に書いたり、贈り物の御礼の電話をかけたり、葉書を書いたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアや居室に季節の花や絵葉書を飾っている。また、季節に応じて室温などの調整にも気をつけている。また、大きな物音をたてないようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間から一望できる中庭には、お大師様の石像があり、利用者が手を合わせておられる。春には桜が咲くようだ。居間には、テーブル席と大きな画面のテレビとソファが置かれており、利用者は、洗濯物を干したり畳んだり、テレビを見たりして過ごされていた。玄関横には、洋服掛けが置いてあり、利用者の上着をかけておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気の合う方同士で、ソファーやテーブルで過ごせるよう工夫している。独りで過ごせる時間も持てるよう、ソファーの配置も工夫している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>自宅で使っていた筆筒やいす・飾っていた写真などを持ってきていただいて、安心できる空間作りが、できるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>タンスとベッドは備え付けてあるが、ご自宅で使っていたベッドを持ち込んでおられる。テレビ・テーブル・椅子・ラジカセ・蛍光灯スタンド・ぬいぐるみ等も見られ、居室それぞれに雰囲気が違っていた。亡夫と写っている写真やご家族の写真を大きく伸ばして送ってくださるご家族があり、居室いっぱいに貼って、ご家族に囲まれているような雰囲気の居室もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>入居者が家事をするために、よく通るところの足元には物をなるべく置かないようにしたり、電気コードにつまづかないように端によせたり注意の声かけや見守りを行うようにしている。</p>	